

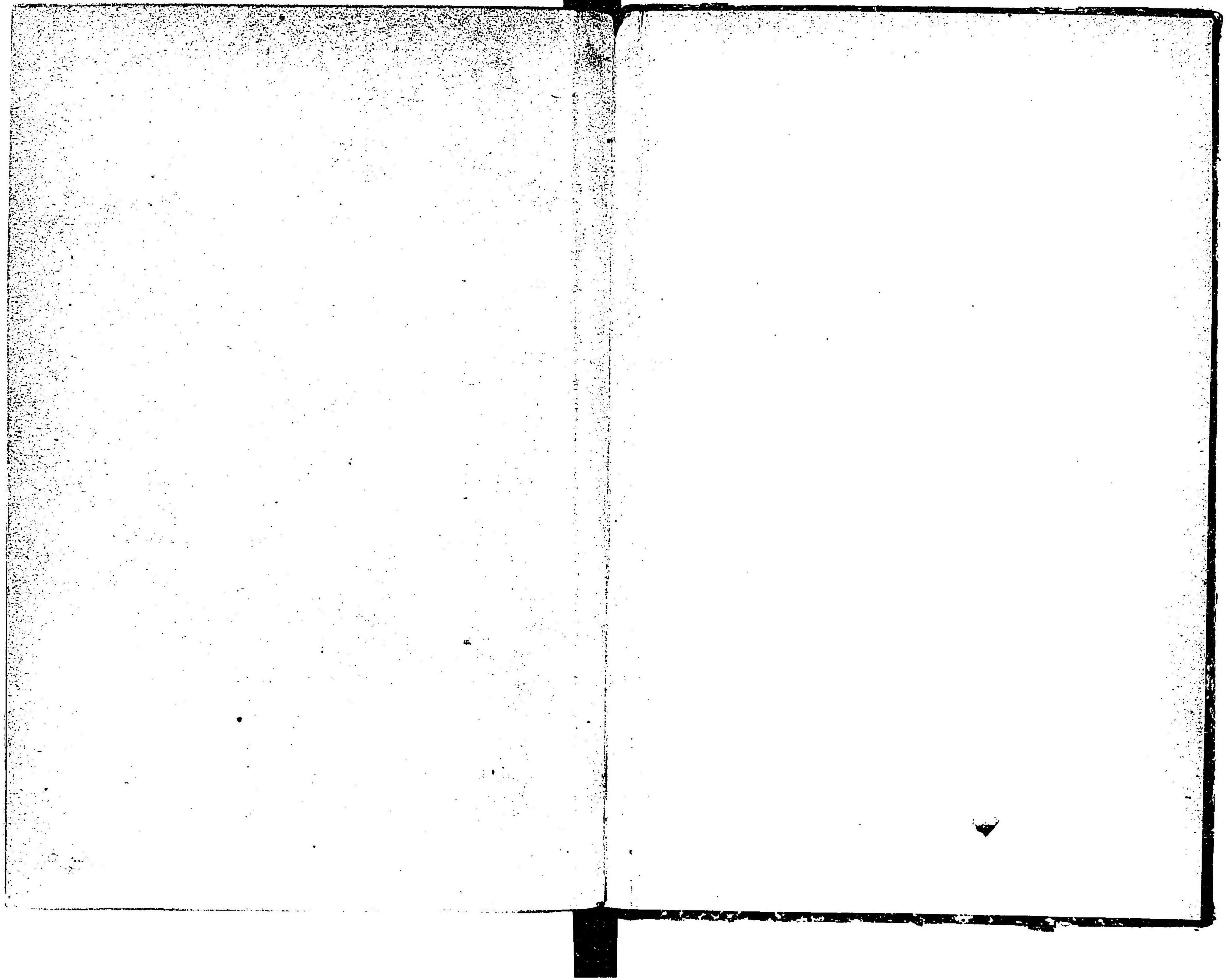
18

700

インセクトパウダーブランド

除虫菊栽培書

附京都本草會會員名





第三回内國勸業博覽會及
第四回内國勸業博覽會

受賞廣告



有功三等賞牌

褒賞証

白蠟

和歌山縣有田郡山田原
品質佳良ニシテ價值廉ニ製額亦多シ
是ノ畢竟製造ノ法方ニ改良ヲ加フル
ニ依ル其有功嘉賞スベシ



有功三等

審査部長 從四位勳四等 前田正名
審査官 長從三位勳二等 九鬼隆一
前記ノ薦告ヲ領シ茲ニ賞牌ヲ授與ス
明治廿三年七月十一日
總裁大勳位貞愛親王

有功二等賞牌

褒賞証

白蠟

和歌山縣有田郡山田原
夙ニ精製ニ注意シ品質佳良ナリ價格
低廉製額亦甚多ク能ク内外ノ需用ニ
適ス



有功二等

審査部長 正四位勳四等 前田正名
審査官 長正三位勳二等 九鬼隆一
前記ノ薦告ヲ領シ茲ニ賞牌ヲ授與ス
明治廿八年七月十一日
總裁大勳位彰仁親王

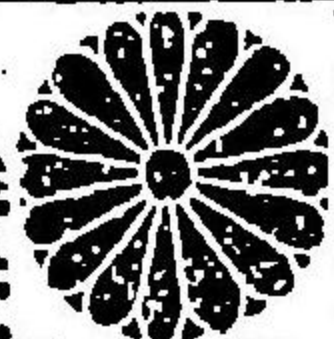
輸出重要貿易品ノ一ニ數ヘラル、世界特有物産殊ニ豪商ノミニヨリテ製造セララル、白

蠟ニシテ有功二等以上授賞ノ榮ヲ荷イタルハ大日本國中僅カニ六名而シテ此ノ名譽ヲ
 ル幸福者ノ其一人タルハ實ニ予ノ名譽トスルトコロナリ

第四回内國勸業博覽會褒狀

和歌山縣有田郡山田原

紀州本場蜜柑苗 上山英一郎



審査官 從七位 南 鷹次郎
 從五位 福羽 逸人

審査部長 正四位勳三等 田中芳男
 審査總長 正三位勳二等 九鬼隆一
 審査總長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治廿八年七月十一日

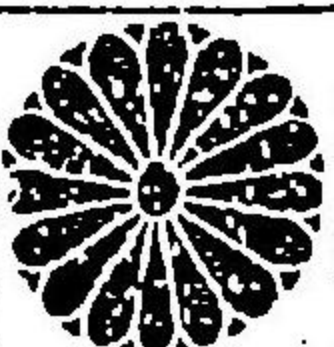
總裁大勳位彰仁親王

多年植物培養上ニ注意シ其得ル處實ニ妙カラズ即チ予カ手ニヨリテ培養セラレタル苗
 木ハ之ヲ遠地ニ運ビ或ハ瘠土荒蕪地ニ轉植スルモ少シモ枯傷ナク繁茂成育ス是レ則チ
 培養ノ熟練ニヨルモノトス

第四回内國勸業博覽會褒狀

和歌山縣有田郡山田原

紀州本場温州蜜柑苗 上山英一郎



審査官 從七位 南 鷹次郎
 從五位 福羽 逸人

審査部長 正四位勳三等 田中芳男
 審査總長 正三位勳二等 九鬼隆一
 審査總長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治廿八年七月十一日

總裁大勳位彰仁親王

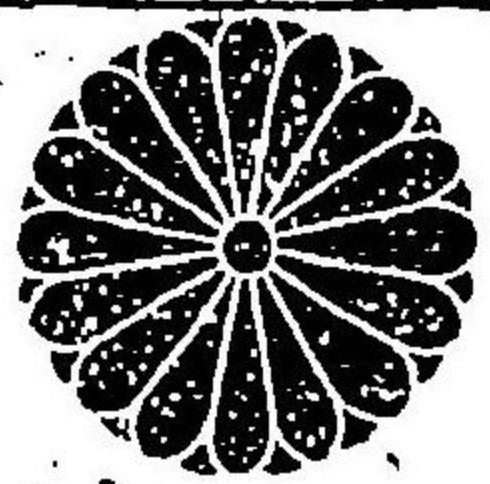
褒

第四回内國勸業博覽會褒狀

和歌山縣有田郡山田原

一除虫菊

上山英一郎



審査官 從七位 南 鷹次郎
 從五位 福羽 逸人

審査部長 正四位勳三等 田中芳男
 審査總長 正三位勳二等 九鬼隆一

審査總長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治廿八年七月十一日

總裁大勳位彰仁親王

狀

一除蟲菊

(混虫類殺滅劑原料)

近時除虫劑ヲ製造販賣スルモノ多シ然レ共概テ舶來外品ノ請賣ナナスモノニシテ儘内地ニ製造スルモノ(原料ヲ拙者ニ仰グモノモ)アリト雖モ一種千金射利ニ汲々トシテ種々ノ雜物ヲ混合シ或ハ正品ノモテ製造スルモ其製法ニ注意考案シ能ハザルノ輩ノミナレバ充分ナル功能ヲ奏セシムルモノ一モアルコトナシ併シ拙者ハ除虫劑ニ就テハ多年苦慮殊ニ効能ニ於テ驚クベク奏効セシムル爲メ摘花 日曝 香氣ノ發揚加減等深ク考究發明シ其結果舶來品及ビ一般凡人ノ製造シ能ハザル功能顯著ノ佳品ヲ製出セリ

又苗ハ殊ニ培養宜シキヲ得強硬ナレバ之ヲ遠地ニ運ビテ數日ヲ經ルモ(普通除虫菊ハ至リテ纖弱ノモノナレバ少シノ日數ヲ經レバ概テ枯死スルヲ常トス)枯死セザルノミナラズ少モ傷ミナク能ク成育繁茂ス(乃チ發生成育責任帶テ保証シアルトコロ

ナリ)而シテ種子ノ如キモ充分注意選擇シアレバ播種一トシテ發生セザルコトナシ是則今般博覽會ニ於テ特ニ褒狀ヲ下賜セラレタル所以ナリ

除虫菊ハ種子發生甚々六ヶ敷(田中芳男君ノ如キインセクトハ實ニ有益ノ奇植物ナレモ惜ムベシ本邦ハ地味適セズト併シ當時ニアリテハ種子ノ選擇培養ノ方法等ヲ欠キシニ因リシナラン)否ナ殆ンド發生セザルモノトスレモ是皆種子ノ選擇ヲ欠キ或ハ婦人輩ノ惡所業新聞紙上種々偽姓變名シテ彼ノ郵便切手爲替券ヲ詐取シ其一時ノ責任ヲ免ル、爲メ盪水ヲ掛ケタル雜草火ニ炮シタル草種ヲ送リテ跟跡ヲ暗マス如キ詐偽者ノ類ノミインセクトハ寒暑如何ナル地ニテモ(水田濕地ヲ除キ)能ク發生繁茂スルハ予ノ保証スル所ナリ且ツ我國至ル所地味好適シアレバ必ず自棄失望スルコト勿

明治廿九年 月 日

紀州有田郡山田原

改名英之助

上山英一郎

除虫菊創植者

大日本實業會五二會々員
大日本木蠟會々員
大日本農友團々員
大日本京都本草會々員
米國桑港サヌー街百廿二番植物會社々員

予カ培養ノ除虫菊ハダルマンシヤ産原名ヒレンスラムシチラリーフオーリアム乃チダルマシヤノインセクトパウダーノ種子ニシテ(白花單瓣)ベルシヤンインセクト又ハ金雞草ノ如キ類ニアラザレバ其效能顯著ナルコト驚クベキ大利アルコト保証ス充分信用アレ又特ニ藥種商諸氏ニ勸告ス目下獨逸英吉利等ヨリ巨多ノ殺虫劑輸入スレバ其效能自製ノ新鮮品ニ逆モ及ブベシモアラズ又此植物ハ其原產地ヨリ遙カ本邦ノ方地味好適シアレハ増々栽植シ大ニ害虫ヲ殺滅スルト全時ニ如何ニ利益ノ多キヲ知ルベシ

インセクトパウダープラント

除虫菊は素と是れ舶來の種子なり其形宛も金雞草の如く其花香氣高くして殺虫に効あり

り特に蚊蚤其他南京位等總て動植物の害虫類に殊更なる效能あるのみならず又能く稻虫殺虫に有効ありとす予先年來試植し今や數多の苗を培養せり併し事試植にあれば敢て收利の目的にあらざりき然るに昨年三月三日大阪朝日新聞を始め全國諸雜誌諸新聞の擧て特に此の有利にして有益なる奇植物なる事を記載せらるゝや遠近有志者續々顯出し分與請求實に非常なり一々應答の煩に堪へざる會々友人某語るに除虫菊のみを目的とせざる廣く社會公共事業として且つ側ら幾分か多年の報酬として收利すべきを勸告せらる依て茲に始めて販賣する事とせり世の殖産有志家單に愆心として卑むこと勿れ除虫菊は蛆、虱、南京虫、蜈蚣、毛虱、羽虫、蠅、鱗蟻、蚤、蚊、夜盜虫、根切虫、米麥雜穀の害虫其他作物にありては綿、藍、煙草、野菜の害虫樹木の油虫、芽喰虫、毛虫、稻虫等有らるる動植物害虫を殺滅するの奇効ある事已に我國醫化學士ノ試験と實驗により明なりとす然りと雖も藥店に於て買求めたるものは效能の稀薄なるものありて蚊、南京虫、蛆、毛虫の如き即時奏効するものも往々效能顯著ならざるものあり

八
が畢竟是等は舶來の原物乃ち外國製造所に於て已に茶の粉小麥粉或は莖葉等の種々混物しあるに内國商人の更に糠糞粉等各種の混物をなしたるによるものなれ共又時に除虫劑の眞性を誤まり效能顯著ならざる事を喋々する輩尠なからざる混物なき新鮮なる自家製造の純良品は決してかゝる效能の薄きものにあらず之を使用するときは如何なる虫類といへども殺滅せざる事なく實に驚くべき效能あるものなり

除虫劑を使用するに其虫性の強弱により用法種々あり粉のまゝ撒布するあり乾花のまゝ燻煙するあり又液汁として灌注するあり(用法下に記す)其用途頗る多し北米合衆國の如きは外國より輸入するもの年々驚くべき巨額にして其用途は屋内の混虫のみを用ゆるにあらざる家畜を始め草木の害虫殊に果樹、煙草、綿木等の害虫に用ゆるもの多しと云へり我國の如き未だ之を使用する事普ねからざる雖ども今猶年々英吉利、獨逸、澳太利等より輸入するもの亦少くならざる昨年(一九〇〇年)の如き輸入額八万圓以上に上れりと外國より輸入するものは粉末は一箱十六ペ目を入れ乾燥花は一箱四十八ペ目を詰

め何れも無税なり

除虫菊は近時北米合衆國よりホルニヤへ移植して驚く可き巨利を博しつゝあるものありと實に謂れなき事にあらざるなりホルニヤにありては此の除虫菊を以て輸出貿易重要品の一とし其額年々百萬圓の輸出をなしつゝありと云へり又驚くべき巨額と云へし

本邦除虫菊の種子をマルマシヤより傳播したるは實に近年にあり依て未だ大に栽培に従事しある事を聞かざると雖も(曾て農商務省より種子を下附し栽培せしめたる事あれ共種子の不良と栽培法を誤りたるため絶滅せりと云ふ)予が栽培實驗によるときは原産地より遙か我國の地方地味適當しある事を發見せり是則ち除虫菊に限らず如何なる植物と雖ども本邦に適應せざると云事なきは其季候風土のよろしきによるなるべし然るに往々除虫菊の種子は發生しがたきもの或は發生せぬものとし又は苗の如きも地味不適當にて繁茂せざるものと誤認する人あり是等は其栽培の方を知らざると且種苗の撰擇

を欠くに大に原因する事を知らざるが故なり其實例を擧ぐれば

予始めてインセクトを播種せし時甲乙數ヶ所に苗床を整理し播種の法方を始め注水其
他注意至らざるなし然るに甲は發生せざ乙は發生後悉く枯死す依て大に失望せり會々
播種の途次(尤も自園中)種子の容物を轉覆し散亂せしめたる事を思ひ起し心當りの地
を索求せしに計らざりき所々に數十株叢生しあるを發見せり直ちに掘り取り之を培養
せしに日ならざ繁茂し次で開花し成實せり而して再び之を甲乙丙丁所々に區畫し播種
せしに實に左の割合に發生せり

花辦萎凋後

一周間經て採取し播種せしもの

發芽凡そ ○、三分 二週間經たるもの ○、九分 三週間のもの ○、七分

苗床に灌水

毎朝夕せしもの ○、五分 毎夕せしもの ○、九分 毎三日めのもの ○、七分

種子選擇

普通のもの發芽 ○、二分 選擇せしもの ○、三分 精選せしもの 十〇、

右成績により考ふるに種子は花辦萎凋後二三週間のものより良し播種後の灌水は毎夕
とし種子は充分精選せしもの、最良なるや明かなり然れども採種季は往々霖雨期に出
會する事あり宜しく晴天を見透し採取するを良しとて又前に甲乙二ヶ所に播種せし
もの、甲は發生せざ乙の發芽後枯死せしは一は扱ひ町重に過ぎて注意をかきたると一は
種子の選擇を欠きたるによる事を發見せり甲の發生せざるは毎朝夕多く灌水せした
表面の粉土粘結して種子を腐敗せしめたるにあり乙は種子不精選のため發芽漸次にし
て一齊ならざ則ち種子の佳良なるものは早や已に發生しあるに不良なるものは未だ發
芽せざ此の際にして覆を取り除く時は將に發生せんとするもの乾死す依て數日覆をな
せしに前に發芽せしもの黒点を生ト大半腐敗枯死の狀を呈せり再び驚て覆を除しに日
射のため已に織長せしもの及び將に發生せんとするもの共に一日に乾死せしめたり是

六 播種季及び播種法

除虫菊播種季は 秋季を可とす尤も春季になすも可なり但し播種の季は秋は八月より十二月まで春は三月上旬より五月上旬まで蒔きて發生す又夏季土用及び大寒中の外何時蒔も發生すれども春秋二季に蒔くをよしとせ就中秋に蒔はよし

蒔方 旭日の早照する且つ輕鬆なる土壤の地を擇び深く耕し能く土塊を碎き地面を平らにし之に充分人糞を(但し水肥)注ぎ篩にて粉土を篩ひ落し其上に密つに種子を撒布し(粗く蒔く時は徒らに場所を要するもる自然注意とゞかせ故になるべく密にするをよしとす)種子の上に薄く粉土を(種子覆はるゝか覆はれざるかの如く)極めて細かさ篩にて篩ひかけ薄き藁薦又は庭にて適宜覆をなすべし、覆は蒔々日暮より翌日七時ころ朝日照射する頃まで取り除くを可とす尤も降雨の際注意して覆をなすべし強雨のため種子埋没し或は流失する事まゝ多し

注水は如露様のものにて毎夕なすべし但し多く注水をべからせ、種子發芽すれば

四 して我國今猶年々多額を輸入しつゝある舶來品の如きは又早晚防止するに足るのみならず又一段の輸出品となるべし

(弊園の如き先づ手始めとして本年より大阪の貿易商小今井英三郎氏と特約して大に支那朝鮮及び占領地臺灣地方へ販路を擴張する事に從事せる事とせり而して昨廿八年の如き已に全氏の手を経て數方を該地方に試賣せしに大に喝采を博せり併し全年は何分原品不足のため充分需用に應ざる能はせ隨て使用途も僅かに南京虫蚊虱蚕位に用ひしに過ぎざれども該地方の如き隨分種々雑多の害虫多き由なれば今後おもしろき需用を來すや明なるべし)

予は各位特に藥種商及産業篤志家諸氏に勸告す此の有望なる植物増々栽植して歐米各國へ輸出し(例令へタルマシヤ又はヘルシヤの如く輸出重要物産たらしめざるにもせよ)將來一の物産となす事を企圖すべし原種を彼れに得金銀を彼れより得る豈又愉快の業ならせや五

則ち其の扱の素より拙なりしによりたるなれ共又一に種子の不精選なるによりたる事
明なり(播種方下に記す)

除虫菊種子は一般發生しがたきもの、如く云へり然れ共予の實驗にては
(精良種子は)意外に能く發生するものなり元來除虫菊は其性野生なる事は已に散乱し
て少しも注意せざる畝中にては發生する事あるを見ても明なり依て予は只種子の充分
なる撰擇と播種方及轉植の際とのみ注意する事とせり而して斯の如き粗畧の注意は反
りて能く菊其ものに適せし故なるか爾來播種曾て一回だも發生せざると云事なく漸次
大に繁殖せり以後實地試験のため或は之を山頂に或は荒蕪砂礫地に瘠土に膏腴地に寒
地に暖地に又は北陸地方霜雪深き處等種々轉栽移植を試みしに是れ亦繁茂せざると云
事なく何れも好結果を呈せり

之れにより考ふるに本邦の地味は原産地より遙か好適しあるや其實驗により明なりと
を依て本邦此の植物を大に奨勵栽培するに至らば他日其産出の盛大に趣くや必せり而

ハの下に竹又は木の枝を挿入し種子を壓へぬ様をべし又朝暮時々覆を取り除き日光を
加ふるを良しとす

播種の際は藁又は塵芥等は施すべからせ發芽後濕氣に過ぎ腐敗する事多し
覆は大畧二葉になりたるとき全く取り除くべし

野菜類の如く極めて發生し易きとも云ひがたき点あれば覆土は充分細かく且薄く散
布し覆の取り除き苗床の乾濕加減注水等注意すべし

植出し季及び植出し方

植出しは 發芽五六週間後稍々植出し能ふ程成長せしものを秋季植出をべし。但し
小さくして植出し難きものは翌春一月頃より成べく早く植出を可とす

植方は先濕須せざる様適宜畝方を作り能く土塊を碎き方一寸餘間に植出し置くべし
植出し當時は肥料を施すべからせ數日の後糞汁又は干鰯鯿へ粕適宜施すを良とす但
し多量の肥料は反て宜しからせ

轉植季及肥料

轉植季は 秋蒔きにして既に秋季植出し成長しあるものは一二月頃より梅雨の候迄又全年土用明き後より秋氣或は翌春へかけ本場所（本場所）に轉植するを良しとす但し宿根性の者なれば一日早ければ夫丈け能く成長するものなれば一日も早きを利とす除虫菊は其性強硬（つよま）の如くなれども其質極めて軟弱（やわらか）のものなれば數日を経れば概ね枯死す成るべく早く栽植するを良とす。但し屈強上苗（つよまき）に仕立るときは能く日數十數日を保ち能く遠地に轉送することを得（既に弊園の如き保証して如何なる遠地へも轉送し曾て枯死せしことなし）屈強苗の仕立方は植揚の地質と施肥の加減と數回の轉地及掘取りの扱ひ荷作りの注意等已て經驗よりなすものなれば茲に記載し難し要は只根幹を養ふにあるのみ

普通苗（ふつぽ）にありては枝葉繁茂の割合根株（ねかぶ）に至りて軟弱なれば掘り上後數日を経過すれば成育の見込みなし僥倖にして枯死せざるものも夏季に至り悉く枯死するを常と

そ然れども屈強苗は決して斯る憂なし。併し此屈強苗は遠地送りの爲殊更に注意し培養するものなれども遠地に轉送せざるものは此勞を取るに及ばそ不熟練の爲め反て萎縮せしむるとあれば數回の轉植はなさぬを良しとす

肥料は 植出しの際根先（ねさき）にかゝらぬ様干鱗（かんりん）へ粘粉少し施すと可とす
問合ひは 小さき畝を作り凡そ五六寸を経て植へし最も時々雜草を除却するを勉

めとし
畑地にありては畝を設くるに及ばそ其盛に植て可なり故に淺分か株數多く栽植し得らるべき割合なり

肥料季

肥料を施すは 秋氣に限る。但し若苗（わかぼ）に施す肥料は春季を可とす。轉植後の苗の施肥秋氣に限る所以は他にあらそ凡そ植物は肥料多ければ其莖幹肥大繁茂する勿論なれども隨て開花も亦概ね後るゝを常とす然るに除虫菊は其收入の多寡肥料季節の當

否より(目下)寧ろ早成を希望す春季に施す肥料は菊其植物には好季に相違なければども是が爲め莖葉繁茂に過ぎ肝要なる除虫粉入用のとき(乃ち蚤の發生し數万の除虫粉需用類々なるとき)開花數日を後るゝ憂あり故に秋季肥料を施し置き開花前漸々肥料を欠乏せしむるにあり之れに反し若苗は幹莖の繁茂充分望むものなれば陽氣盛なる好季に乗じ肥料を施せば數日の後驚くべき成育をなす。花期は四月中旬蚤の多く將に發生せんとするとき開花す則ち採りて乾燥せしめ或は粉となし燻べ又は液とし除虫劑とす新鮮にして實に効能多し

殺虫劑製法

殺虫劑製法は 至りて簡便なるものなり則ち已に咲きたる盛花を(老花若花は香氣稍々薄し將に滿開せんとするは最も良し)摘み採り炎天に能く乾燥せしめ而して挽臼にて粉となし其儘用也
但し降雨打積るか或は乾燥充分ならざるときは火氣とて乾し粉となすべし

又蚤の發生の頃は驚べく多く需用され爲めに品切れとなること多し必らず豫トめ準備を要す此際に當りては乾燥せしむる時日なき故人數を以て細かく切りて乾とべし然るときは二三時間にて乾燥せ(但し細断するときは功能多少稀薄となる)發賣せんと欲せば挽きたる粉を篩ひ細粉として適宜に袋入又は罐入として賣却せべし併し殊更に小賣をなすに及ばざる多くの藥種商買入れに來るに就き其儘賣却すること便利なり一度其味を知れば以後花を乾かそに及ばざる生花の儘能く賣れるものなり

製法秘密

摘花 好季は花心の肥たる時より將さに殆んど開きたる時を最良とす
但し若花にして開辦せざる時は收入甚だ少なく且効能薄し併し滿開して花心肥大

に過れば種子形をなすに付き随て香氣薄く或は殆んど無効となる故に開辦一日より二三日内に摘み取るを良しとす

乾燥 麩又は板の上に成るべく薄く晴天四五日間曝し花心乾きたる處で濕氣せぬよう厚紙袋又は壺に收むべし若し乾き不充分の時は製粉の後變色す併し厚干のため日數を要し或は徒らに永く曝す時は花心の黃色と共に香氣脱却し無効となる故に中心乾きたる時は直ちに收め入るべし

香氣發揚 製粉となす時火氣に炮すべし但し火爐相當の箱を作り四方及び上部を紙にて張り之れに紙底引出し二個を挿入し此の中にて炮をへし漸く火氣の爲め其稍濕氣を呈し次で乾燥すれば取り出し暫く熱氣を冷し而して之を先臼にて搗き(大なる鉄臼にて挽けども反りて搗く方便なり)大畧粉となし又之を挽き臼にて挽くべし簡便にして其出來甚早し但し挽臼搗臼何れか一方にて此の三件卒爾なるが如くなれども粉出來の上全く効無効の關係を有す能く注意すべし

除虫粉は 其粉末細微に過る時は掃除し難し反りて疎なるを方便とす

用法

用法は 種々あれども南京虫蚤風類には寐床の中又は其下に撒布し或は疊の端にに入れてよし衣類毛布毛皮書畫幅書籍箱杯は其中に撒布してよし 牛馬犬猫鶏其他家畜の毛虱蚤羽虫類は毛中に振り掛くべし

蚊遣りは粉の少量或は乾花のまゝ燻ぶべし煙りなく且佳良なる香氣あれば夏の便用甚だよろし

除虫花粕を燻ぶるも効能顯著(夜中蚊軍來襲の時は殊に効多し)立どころに混酔殺滅又は飛散し再び來襲の憂なく復た蚊帳を用ふるの要なし而して其戸障子を閉せば悉く轉落殺滅する事蚤よりは奏効一層早し(夜中讀書或は安坐蚊軍來襲の時極めて少量をふすべし試むべし狼狽轉落奇妙に全く殺滅す)

蠅は 混物なき新鮮品(舶來の混物多く或は香氣の脱却せしものは効少し)を火氣に

炮^{ばう}下^{した}て香氣^{におひ}を高め又は器物に入れて時々攪^{かきま}乱^ませば退散^{たいさん}す但し蚊^かの如く効能^{きうのう}眼前^{がんぜん}に見へざれども敷^{しき}時間の後^{のち}混^ま醉^{たい}轉^{てん}倒^{たう}し何時^{いつ}となく終^{つひ}に退散^{たいさん}其踪^{そのあと}跡^{あと}を失^{しう}す併^しし蚊^かよりは多量^{たうりやう}を要^よす(又蚊^か遣^やりの如^{ごと}く燻^{くす}ぶるもよし)

米^{こめ}麥^{あわ}雜^あ穀^{こく}の虫^{むし}には俵^{はう}口^{くち}に其他^た類似^{るい}の害^{がい}虫^{ちゆう}及^{および}草^{くさ}木^き野^や菜^{さい}の葉^は芽^めに累^あ集^つする害^{がい}虫^{ちゆう}には其^{その}局^{きよ}所^{しよ}に振^ふり掛^かてよし

甲^か虫^{ちゆう}有^あ羽^う虫^{ちゆう}にして粉^{こな}末^まを散^{さん}布^ふし難^{がた}きものは液^{えき}汁^{じゆう}を注^つでよし

果^{くだ}樹^{じゆ}或^{ある}は喬^{たか}木^きの害^{がい}虫^{ちゆう}には期^き晴^はの早^{はや}朝^あ樹^{じゆ}下^{した}に燻^{くす}べ(糠^{ぬか}木^き屑^{くず}等^{らう}混^ま合^あするもよし但^れし混^ま合^あは兩^{りゆう}日^{じつ}前^{まへ}にすべし)又^{また}は除^{じゆ}虫^{ちゆう}液^{えき}として注^つ射^{しや}をべし

稻^い虫^{ちゆう}に用^{もち}ゆるは乾^{かわ}燥^ばせし花^{はな}を粉^{こな}又^{また}は其^{その}儘^{まま}施^せして効^{きう}あれども目^め下^{した}該^{がい}花^{はな}非^ひ常^{じょう}なる高^{たか}價^げを以^もて需^き用^{よう}され得^えらるべきにつき收^{しゆう}利^り上^{じやう}花^{はな}は施^せし難^{がた}し依^よりて其^{その}莖^{かき}を乾^{かわ}かし其^{その}儘^{まま}稻^い田^{でん}に入れて良^よし殺^{ころ}虫^{ちゆう}の効^{きう}あるのみならぞ又^{また}能^よく肥^こ料^{りやう}の効^{きう}ありとす

但^れし除^{じゆ}虫^{ちゆう}粉^{こな}は自^じ家^か多^た量^{りやう}に製^{せい}造^{ぞう}する時は甚^おだ安^{やす}價^げに出^で來^きする故^{ゆゑ}に除^{じゆ}虫^{ちゆう}粉^{こな}を其^{その}儘^{まま}用^{もち}ひ

或^{ある}は除^{じゆ}虫^{ちゆう}液^{えき}となして用^{もち}ふべし

已^いて粉^{こな}のまゝ用^{もち}ゆるは其^{その}局^{きよ}部^ぶに散^{さん}布^ふしてよし但^れし綿^{わた}藍^あ野^や菜^{さい}其他^た果^{くだ}樹^{じゆ}類^{るい}に搗^た廣^{ひろ}く用^{もち}ゆる時は糠^{ぬか}或^{ある}は麥^あ粉^{こな}を混^ま合^あし用^{もち}ゆべし。但^れし使用^{しやう}の時^{とき}は三十^{さんじゆう}時^じ間^{かん}以^も前^{まへ}混^ま合^あし置^おくを要^よす

燻^{くす}烟^{えん}して奏^{そう}効^{きう}せしむるは純^{じゆん}粹^{すい}除^{じゆ}虫^{ちゆう}粉^{こな}は勿^な論^{ろん}佳^か良^{りやう}なれども乾^{かわ}燥^ば花^{はな}のまゝ用^{もち}ゆるも又^{また}甚^おだ簡^{かん}便^{べん}なり蚊^か蠅^{りゆう}蚤^{さい}南^{なん}京^{きやう}虫^{ちゆう}等^{らう}諸^{しよ}種^{しゆ}の害^{がい}虫^{ちゆう}を驅^く除^{じゆ}するのみならぞ香^{かう}氣^き馥^ふ郁^{いく}人^{にん}を悦^{よろこ}ばし室^{むち}内^{ない}の使用^{しやう}至^{いた}りて妙^{めう}なり。而^{しか}して蚊^かの如^{ごと}き絶^たて室^{むち}内^{ない}にある事^{こと}なく又^{また}蠅^{りゆう}の如^{ごと}き所^{しよ}に轉^{てん}落^{らく}し何^{なん}時^じとなく退^{たい}散^{さん}す(常^{じょう}に除^{じゆ}虫^{ちゆう}粉^{こな}使用^{しやう}する時は廁^{かわ}等^{らう}に至^{いた}るまで蛆^{うじ}虫^{ちゆう}の蚤^{さい}生^{せい}なければ予^よが家^{いへ}の如^{ごと}き一^{いつ}匹^{びつ}の蠅^{りゆう}ある事^{こと}なし)

除^{じゆ}虫^{ちゆう}粉^{こな}の高^{たか}價^げにして稍^{しやう}や調^{てう}ひ難^{がた}き時は粉^{こな}又^{また}は花^{はな}中^{ちゆう}へ鋸^{のこ}挽^ひき屑^{くず}又^{また}は他^たの燻^{くす}ぶべき添^そ物^{ぶつ}をなし燻^{くす}ぶべし少^{せう}重^{じゆう}と雖^なども能^よく奏^{そう}効^{きう}をなす
但^れし燻^{くす}煙^{えん}用^{よう}に製^{せい}せしものは除^{じゆ}虫^{ちゆう}菊^{きく}の莖^{かき}葉^は或^{ある}は他^た物^{ぶつ}を混^ま下^{した}別^{べつ}に製^{せい}造^{ぞう}す

除虫液として使用するものは土中の害虫及草木野菜等に稻虫の如き場廣く用ゆるもの又は飛逃するものに注射使用するものなり使用方は日出前或は日没後灌注すべし液汁製法は先づ水を沸騰せしめ之れに除虫粉花を投入器物に密閉し冷却せしめ使用す

(強劇除虫液製法は篤志家に限り別に教示す)

除虫菊は 濕氣地よりは已べて乾燥の地則ち山畑又は畠の方宜しきが如し

但し畝形となすに於ては田面又は濕氣地に於ても能く繁茂成長する事野菜の類と畧ぼおなト

除虫菊 春蒔きは翌春開花す苗移植すれば其年開花す

除虫劑は のみどり粉と云可から老蚤の如きは只一部の使用のみ且其効を奏する殆んど一夜を要す奇効少なき内なり又其使用途は蚤より重要のもの多ければなり

除虫菊は其の原産地より遙か日本の方地味好適しあれば能く繁茂するのみならず彼

の輸入粉は何れも概ねヒチ粉(乃ち昨年もの或は二三年越しの古物加之ならせ小麦粉茶の粉莖葉等の多く混物ある悪品に猶本邦薬店の之れに練賣粉等を多く混じたるもの)故効能甚だ薄く到底自家製造の新鮮品に及ばせ比例は自家製二分目と舶來粉一匁の割合んと五倍の相違あり試みに予が製造の一貼を麻床に散布し置くべし少量の一包能く一夜に數百を殺滅するのみならず其効能猶翌夜も同様にして其比例明らかなり

除虫菊は 其株年々枯死するものにわらせ數年成育し歳々花を開く

但し數年経過し(勿論五六年はよし)古株より開花せしものは已て効能稀薄となる依て漸次播種し苗を培養し置き植替へるを良しとせ

栽培に根分け法もあれども根分けする時は其一方根分けせられし丈け夫れ丈け原株損傷して益なく且根分けせしものより開花せしものは其効能薄ければ不利となりて益なし依りて弊園の如き根分けせし隨て根分け栽培法畧して記載せし

植付株數

除虫菊植付は 一步に付三十株とす則ち一反歩八千株乃至九千株とす

但し初年にありては一步に付五十株以上を植ふ先づ充分其年の利益を收め翌秋或は後年繁茂せし時其幾分を轉植せるはよし

播種は一步に三合を適度とす尤も數月の後植出すものとす

收 益

除虫菊收益は 一反歩金三百圓と假定しわれども目下販賣しつゝあるは實に收益過大茲に明言するを憚る復た問ふ事なかれ則ち推知すべし

計 算 表

一金三百貳拾貳圓五拾錢

一 反 步 收 入

内 譯

一金三百拾五圓

一反歩にて生花百八十貫此の二分止り乾燥粉三十六貫收入

但し一株に付生花二十二匁五分得るものとし八千株に付乾燥粉三十六貫目の割一袋四分入賣價金七厘内半額卸賣割引其他手数料宛て半額金三厘五毛實收入と定む

(花數七千個にて一貫目あり故に一株二百つゝ、開花するとせば生花二百廿餘貫を得又大株は一株より六百乃至七八百も開花すれ共是は平均となし難し)

一金七圓五拾錢

莖 葉 料

此の莖目下は蚊遣りとして需用するゝに過ぎざれども亦稻虫用として使用せるもの多し果して殺虫に適すると一般認むるに於ては一段の價值あるものと知るべし

(ゲルマシヤにありては莖葉又は根を混トて殺虫用とし効あり云々。領事よりの公報に見ゆ。下記公報參看すべし)

一金八拾壹圓

支

出

内 譯

一金六十五圓	種	苗	料
一金五圓	耕	作	料
一金六圓	肥	料	費
一金貳圓	地	租	費
一金三圓	雜	費	

差引金貳百四拾壹圓五拾錢

此の計算は初年の計算なり翌年よりは漸次收穫の増量とる苗木代の不用となる
 又價格の見積り半額なる除虫液を製造して收益を増加とる等已べて此の計算の
 外にあり宜しく推知すべし

右除虫劑として發賣するに實に非常なる需用にて其の當事たうじにありては到底供給きよくを充た
 す能はる世人せいじんの未だ全く此の特効とくこうを知らざる今日猶斯くけふのよにの如し漸く有効ゆうこうを認まむるに於

ては其需用度實そのじゆようどじつに計り知るべからる些末事業せまうじげふとして看過くわんくわする事なかれ

種 苗 定 價

特別上等苗	壹百株に付	金貳圓五拾錢	全	二百株に付	金四圓
全	五百株に付	金七圓五拾錢	全	壹千株に付	金拾貳圓
全	壹萬株に付	金九拾圓			
上等苗	壹百株に付	金壹圓七拾五錢	全	二百株に付	金貳圓八拾錢
全	五百株に付	金四圓八拾錢	全	壹千株に付	金七圓八拾錢
全	壹萬株に付	金六拾五圓			
中等苗は	上等苗の半價とし	下等苗は	中等苗の半價とせ		
精選上種子	壹合	金貳圓五拾錢	並	種子	金壹圓
下等種子	壹合	金六拾錢	種	壹袋	金廿五錢

特に苗の安價物希望やすけものぞんぼうなれば今一層の安價物やすけものあれども成育そだちよろしからる

但し此の安價物にても狡猾者の發賣しつゝある雜草にあらざ不良ながら實物なり

(注意) 近來狡猾の徒輩出し余が奇利を博するを羨むの余り該苗及除虫粉希求者を
瞞着せしむるもの甚だ多し則ち拙者に依頼し粉及び種苗の販賣者となり全村名を
奇貨とぞるあり全姓を冒せあり又僻地方に限らざ大阪住人にして販賣方依頼越し
拙者の受賣をなしながら殊更に何々館何々園と誇大に搦へ自家に培養し或は製造
そるやの如く巧に新聞等に山師的に廣告をするものあるやに聞けり右等は拙者に
は無關係毫も痒痒を感じざれども雜草又は草種を送り(或は拙者の安價苗數本を
混下又は草苗に鹽水を掛け又は草種を炮じ發生を防ぎ痕跡を暗まし又は真正除虫
粉中へ種々混合物をなす等) 殆んど詐偽の形跡をなして賣捌き往々拙者に迷惑を
感ぜしむるもの亦多々あるやに聞けり是等は單に廉價を好んで其人を撰ばざる希
望者自身の不覺とは申せ又實に氣の毒の至りなり若し希望者にして單に安價を望

まば不良なれども實物眞正品を送附するに付き直接に申込まれたし尤も一手販賣
特約者にして着實なる人は別に當方より證明し或は特約の件新聞紙に廣告せ

販賣法方は 後來は定價定額以内の申込みは返金謝絶し來れども今回より定額に拘
はらせ分配す

縣廳郡役所官私設育種場村役場或は一村を代表して請求し又は農會員其他産業に
篤志なる方へは已て一割引。又輸入舶來の蚤とり粉販賣の藥種店に限り一割乃至
二割の添苗をなす

但し並苗は割引割増せせ

荷造りは 已て函入となし枯傷の憂なき様充分注意し發生保証にて發送す

送達は 通運便又は蒸船便(種子は郵便)にて便宜送附すれども特に便利の取次所あ
れば指定せられたし

苗送達は 發生成育枯傷なきこと保証且運賃當方持にて發送す但し荷着時日を直ち

に通知なきときは責任なし(苗掘上げの當日午後五時)特約荷扱問屋大阪川口てしまや方に着荷す夫より直ちに汽車汽船通運便にて發送す(大阪地方に知人あれば申越されたし積送り方一層便なり)

小包郵便は 最寄り局所又は知人の取次便利所のある方は通知置ありたし但し粉又は種苗三百目迄は普通郵便にて直送す尤も郵税は當方に支辨す

代金は 郵便爲替なれば紀伊國有田郡箕輪郵便局銀行手形なれば和歌山市三井銀行

又は四十三國立銀行(或は有田郡湯淺村全銀行支店)其他便宜の銀行へ振り込まれ
たし郵便切手は一割増のと

販賣代理所 又は一手販賣者は特約す

除虫菊の有効なるは已に世人の認知せる處なれども未だ全く其有利を詳知せざるなり然れども是等は年々我國藥種商の巨額の金を投ト獨逸澳太利等より輸入せる額を知ら

ば自から明瞭なるべし又其藥種商の勉めて諸新聞に廣告するに數百金を惜まざるを見ても推知すべし

除虫粉を發賣し及び實に此者むべき種苗を有志に頒つは漸く昨今なれども其除虫粉數月間の發賣高無量五十万袋なり竊かに計算せられよ。拙者は元來本蠶貿易商なり區々たる兒戯物に執掌せる能はされども業は小僧婢の手職にて足れり加之ならせ(領受の金額は是皆殆んど純益)前陳の如く計らざる奇利を得る實に社會に對し聊が氣の毒の感われども是亦幸に諒せられよ

除 虫 劑

除虫劑は定價一袋壹錢。貳錢。五錢の三種其他罐入五拾錢。壹圓。貳圓。五圓。拾圓の數種とす卸賣りは割引す

- 正味 卸十磅 (乃ち一貫二百目) 金 圓 錢
- 全 廿磅 (乃ち二貫四百目) 金 圓 錢

全	全
乾燥花御	金
十	圓
磅	錢
廿	
磅	金
	圓
	錢

但し金高に應じ割引あり送金次第直ちに割引して發送を

代價の應對は無用なり若し弊園のもの高價とすれば隨意勝手に混物あれ此處充分信用ありたし尤も成し得る限り割引して安價に相談を併し混物なき純良品なる事は誓て保証す

除虫劑受賣り 又は取次ぎ賣捌きは紹介を要せ

誰にても許す(但し苗は一縣一郡一名或は數名は當時の約定による)

除虫劑は 賣藥部外なれば印紙を貼用する事なく又誰にても賣り捌く事を得

但し其地村役場へ届けおきてよし(届け書は當方より呈送す)

受賣り販賣試みられし實に多額の需用ある意外に出で身自から奇利に驚くなるべし敢て勸む

有効証明

除虫菊の有効なるは今や我國至る處隠れなきに至り而して其功能的面に顯著なれば日ならず支那朝鮮地方に大に販路を開かんとなす乃ち我國にありては日下蚤虱蚊南京虫米麥虫其他鳥獸杯の毛虱草木に發生する害虫油虫類に用て未だ歐州及び合衆國の如く有らざる作物に用ゐるに至らざる雖も往々實驗の上夥多の需用を來すや明らかなるべし(弊園の如き昨年已でに小今井氏の手により試みたり)支那及び朝鮮地方は所謂世界の芥留場とも云ふ可き場所柄丈種々雑多の害混虫類數多なれば其販路實に計る可からざるは本年五月販賣店朝鮮國元山津上野商店よりの通信により明なり然るに燈臺下暗しの鄙語今猶除虫菊の効能並に今後有望なるや否やを照會し來る輩甚だ多し如何にも迂遠の至りと云ふべし乍併此の除虫菊は拙者こそ或筋の紹介により種子を得て數年來培養しあれども當時にありては未だ他に一人も培養者あらざるのみならず拙者も他に種苗の傳播を吝みたれば隨て効能は勿論其植物の性質を知らざる又無理ならぬと

と云ふ可し然れども今や全國諸新聞諸雜誌舉て此の奇植物の記事を掲載せざるものなきに至りたれば普く効能知れ渡り併せて有利有望の植物なると知得せしなる可し今茲に二三新聞の畧評を記せば明治廿七年三月三日大阪朝日新聞第四千五百廿四號附録黨報欄内に 除虫菊は已ての動植物に發生する害虫を殺滅せるに實に驚く可き特效ある奇植物にして現に紀伊國有田郡山田原某氏は培養せり所謂藥種店の輸入販賣しつゝある處のノミトリコの木なり其一反歩に培養しある苗木金三百圓の譲受希望者あれども持主吝みて賣却せざる云々此他詳細に其有利確實に奇植物なると縷々記述せり 又山口縣防長新聞主筆記者長田逸三君は特に全新聞二千七百四十八號本紙第一面欄内を此除虫菊の記事にて埋め至細に功能の顯著と今後の有望なると且目下の収利驚く可き巨額なるは確實なると并に上山氏は一紳商にして彼の羊頭を懸て狗肉を賣る單に射利的のみの人物にあらざることを證明し懇々社會に紹介せられたり又八月廿五日發兌日本婦人會雜誌に學士靜岡縣中村俊郎君特に人体と蚤蚊の關係を説明し則ち説をなして

(長文なれば就中有益の二三抜萃畧記す)凡そ人体に毒毒を加へ殊に吾人に親炙して煩悶を興ふるは蚤蚊に若くものなし一個の小動物なれば之を打し之を捫する何かあらん然れども隨て捫打すれば從て襲來し其盡るを知らざ(中略)又勞働の苦を一浴の後に忘れんとすれば蚊軍兩賊群襲し帳中に入れば忽ち蚤の侵襲に逢ひ終夜安らかに眠る能はざるは實に精神と人体を疲勞せしむるの大なることを述ぶ而して蚤蚊の睡眠を妨ぐる結果はランケ氏の所謂疲勞物なるもの体中に鬱滯して精神を害し終に達和罷倦頭痛を起し腦神經衰弱症又は脚氣症を誘發し知覺力を滅殺する等諸種の疾病を醸すに至る蚤蚊の害は世人の多く知らざる人体に大なる害をなすことを述べ到底此の恐る可き害虫を驅除せざる可からざることを以てし大に其驅除法方を苦惱せしに計らざりし實に顯著なる除虫奇植物の膝下にあることを發見せしとは云云又全氏は孟買新聞の記事を抜萃してリチ子ニ植物は除虫劑として頗る有効なり埃及國にては戸毎に之を植て其害虫の來襲を防ぐ都會の地には植木鉢に其苗を植て除虫の便利とす併し其葉の十二計りを蚊の群

襲せる室内に置けば悉く消散するも死跡を止むるとなし云

此他詳細なる有効証明和歌山日日新聞を始め第六十三號米子毎日六十九號淡海民報三百三十號北國六百十一號新浪花千七百八十二號大和千八百五十號宮崎二千四百四十三號扶桑二千四百七十八號金城二千五百六十一號山陰三千八百廿五號岐阜四千八百四十五號鎮西大阪毎日東京二六因伯醫事新誌煙草雜誌草藥雜誌農事新報島根縣師範學校學友會雜誌等枚舉に遑わらざ何れも噴々有利有望其奇植物なることを評論し併せて拙者に特に贊評を寄せらる實に予が名譽とする處なり加之ならざ已に大學醫學部に於て試験せらる則ち有望にして有益奇植物なると確知せらる可し兎戲の事業として看過するとなれば幸甚

- 大日本實業會五二會々員
- 大日本木蠟會々員
- 大日本農友團々員
- 大日本京都本草會々員
- 米國桑港サマソ街百廿二番植物輸入會社々員

(赤十字社正社員)

和歌山縣紀伊國有田郡山田原

除虫菊創植者

英之助 改名

上山 英之助

明治廿九年

月 日

インセントの己べての混虫類殺滅に驚くべき有効なるは已に一般の確信するところなり試みに如何なる虫にても花粕又は粉の袋中へ入れ置くべし弱きは數分間如何程強くとも一時間内外に殺滅す又稻虫類を殺滅する除虫液の功能あるは前田正名君の談評により明かなり而して四億萬の支那人を苦しめ猶近時本邦にて逐次蔓延都府市内は勿論兵衛軍艦等に至るまで迷惑を蒙むらす彼の南京虫にも功あり明治廿八年八月六日附大阪府堀川監獄署より有功の御証明を受けたり乃ち如何なる虫にも有効なる事推知すべし

除虫菊の効能は已でに述べたり茲に農商務省發行

農商工公報を以て在澳國領事及び在米國領事より除虫菊に關する我政府への報告を世に發表せしめられたり参考のため記載す有益の件なれば熟覽あれ

明治十八年五月一日農商務省 農商公報第三號

○除虫用菊花粉在澳日本領事ケオルグ、ヒニツテロツト氏は昨年我國に航して各地周游し貿易上緊要の件を調査して我政府に報告せしがそのうちに左の一頂あり

極めて高價の物品にして日本政府の注意を仰ぎたきものはいはゆるインセクト、パウダー、フラワー即菊花の一種にして或は天然に或は種藝によりて高山荒蕪の地(波國領タルマ)に繁茂するものなり此植物の花を集め乾し且粉末にする時は以て虫類を防ぐべし該花の乾物は俵に入れ其粉を桶に詰めるなり花も粉も共に貿易上高價の物品なり北米合衆國は兩品とも歐州より大量を輸入す其價は該花の收穫の多寡及び品質の如何により本場にて乾花一貫目につき一圓乃至三圓の差あり余が

考ふる所に據れば該種の菊花は之を日本山野の荒蕪地に蒔かば必造作なし日本のよき氣候に慣れて忽繁茂をべし而して山野の貧民はその花を摘み採るを以て一種の職業を得べし今その一証をあげんにタルマシアの一小國といへども此品の貿易によりて毎年數拾萬圓の歳入あり

余は日光山中及湯本より沼田に達するコンセイ峠に於て右の品によく類したる一種の菊花の山野に自生したるを見受けぬ唯異なる處は花の形小さくして香氣十分に強からざるのみ兎に角日本の山野荒蕪の地には該植物の適せんと知るべしと此報告を獲て彼此該植物の事ともとりしらべしにたゞ北米合衆國郊野新聞に左の圖説を揚げたり但し此に挿入せる畫は原圖の一斑に過ぎぞ(原圖畧す)

爰に掲げたる圖はビレスルム即ちシリサンセム、コリムボツソムと稱する菊花なり

虫につきて此野菊の價あるとは屢本紙に掲載したれば收穫物を害する諸虫の驅殺

劑に此野菊を用ひて有益なる試験をなしたるシヅキ、リレイ氏が此菊の有用を批認せる事は看客諸氏は尙記應せらるゝならむ

余輩は爰にこの野菊の詳説をあぐべし野菊は奇なる鋸齒状の葉ありて白或は實の花をもてる硬艸なり之を培養する時は凡四ヒート一フートは凡我一尺〇〇五八二一の高さに成長すべし

其地肥沃ならば大抵四ヒート以上にも達すべしこれはシーバーセニウムと稱する菊の類に似たり但し金羽と稱するものは自から異種なりとす

野菊の野生は一フート乃至三ヒートに成長す該菊は葡萄牙よりスウェーデン、オーストリア、土耳其に連続せる中央及び南歐洲の普通植物なり現今米國の博學數輩は此菊類を左の如く短簡に略説せり

野菊各種の花頭を乾燥して細粉となしたるものは虫類を避くるの能を有し且人獸及び植物に害なきことは久しく之を知れりそは波爾西の虫粉或はタルマシアの虫

粉と稱して家中の混虫を防ぐために用ひたりこれを今までは小瓶に入るゝか或は包となして高價に販賣せり

波爾西虫粉はビーカルニウム又はビーロシニウムの花をもて製したるもの又タルマシア虫粉はビーシチリエイホリエニウムにて製したるものにしてタルマシア人ヘルゼゴプナ人及びモンテチグロ人中に知られたりオンタリチ、ロンドンノウ井ルレム、ソインドルス氏は昨年該粉を各種の虫に施して之を試みしに家外の虫を除くにも満足なることを示せり

又千八百七十八年明治十一年の夏博士リレイ氏は該粉を絹の虫に施して著るき効験を顯はせり即該粉少許を撒りかくれば其虫忽植物より落て死すと又テキサスのコロンプスに於ても廣く該粉を畑地に試みて十分に効あることを證せり因て余輩は動植物二物に害なく其功能のはるかに他品に勝れたる快復劑なりと認め唯その價の減せんことをのみ望めり

ズルマシア人ミルコ氏は三ケ年間カリホルニアに於て斷むる反別を増し擴げ、
 シチーを耕作して之を移し入るゝとに盡力せるが爲め大に信用を得たりカリホル
 ニアにて作りたる菊花粉は甚だ實効あり此價ある植物は米國の中部及び南部に於
 ても通常適宜成育せらるべしと假想せりもし該品多くあらば其價多少減せん而し
 て現今賣捌けるものよりも其品位は必精良となるに至らむと
 又或佛人の記したるものに左の説あり

殺虫藥は佛語にブウードル、アンセクシチド英語にインセクト、ヤウダーといひ
 アントミス、ピールトリユムと稱する植物の花をもて製したる粉劑なり此菊は亞
 拉比、阿爾及び佛蘭西の南部に産す方今は其効用あるため諸國に於て培養する
 となれり」此粉の製法は此植物の花を採り乾燥して粉末となすなりこれを最良品
 とす然れども往々その莖葉をも用ひて製するとありこれを下品とす
 此粉は諸虫を殺すの効あり就中人類及び獸類の蚤壁虱を殺すに最妙なり根も之を

粉末として殺虫藥とす

此用法は歐洲に於ては吹子に入れて散布するものなりその用量は寐床一個につき
 六グラム凡我一 勿六分を年に二回施さば壁虱の産する患ひなし
 右の諸説に據れば其極めて有益なると明かなり而して其効用を察するに從來歐羅巴に
 ては室内の小虫を防ぐ爲めに主用しその專これを田圃の諸虫に施せるは蓋米國近年の
 試験に出づるが如し小野蘭山氏の本脚啓蒙に左の説を載せたり

野菊 アブラキク センボンキク イハヤキク

山足路傍に多し原野には稀なり一艸叢生す苗の高さ三五尺枝を分つこと最も繁し
 ゆるに千本菊と呼ぶ葉は鋸齒狀にして密なり莖葉淺綠色斷れは其氣艾の如し秋晚
 花を開くと甚多し單瓣にして大さ四五分心大にして瓣短く微しく香氣ありて黄色
 なりその味苦しと

野菊は元來種類の多きものなればこれまたその一種なるべし農務局は種子を澳國に注

交したれば該種の我國に傳はらむと遠からざるべし然れども廣く山野を搜りて之を求めたらんには或は同種のものあるべしと思はる況んやヒエツテロット氏は日光山中に於て既に類似の野菊を目撃したりしをやたとひ洋種とは全く異なりとも均しく野菊の種類ならば多少必殺虫の効あるべし斯る貴重有益の試験は農家の忽せにすべきものにあらず

明治十九年四月十五日農商務省 農商工公報第十四號

○菊花粉 本報第三號に掲げたる除虫用菊花粉の事につき在米國領事館よりの報あり左に抄録す

インセクト、ハチダー輸入インセクト、ハチダーは箱詰めにして其壹箱の量目百廿磅より百五十磅を容る昨年中の輸入原價の總計は五万五千百八十九弗なり而して輸入の景況は年々其額を減せる方なり

紐育府に於て卸賣直段は量目壹封につき二十六仙乃至三十二仙なり然れども市況

と供給の摸樣によりてはや、これよりも高價に赴くとありこのインセクト、ハチダーは虫類を除去殺害するの用に供するものなり

インセクト、ハチダー、フラワーこのフラワーは俄造りにして其壹俵の量目は四百封乃至五百封なり昨年中の輸入原價總計は壹萬千八百八拾弗なり而してこのフラワーは彼のハチダーに代り年々輸入増加の方なり當府に於てこのフラワーの卸賣直段は壹封につき廿五仙乃至三拾仙なり然れどもこれまた需要と供給との摸樣によりてや、高價に赴くとあり

以上の二品は重に澳國トリエストより輸入し來れどもまた倫敦及びリハプールよりも多少積來るものなり

此二品につきての市況を聞くにハチダーの方は混交物あるを恐れて需要者これを忌むの摸樣あれどもフラワーの方はこの恐れなきがため漸次増加するの摸樣なりといふ且二品とも輸入無税に属するものなり

明治十九年六月十五日農商務省 農商工公報第十六號

○除虫用菊花栽培法 インセクト、バナダー、フラーワーのとは農商工公報第三號

第十四號に掲載して聊注意を促したるに果して各地の有志者各種の菊花を寄せて鑑定を乞はれしもの十數人に下らば其注意意に到れりと謂ふべし然るに今澳國トリエント領事館より其種子に栽培書を添へて贈り越したれば種子は取あへる南方地方に分ちて試殖せしめ茲に來書を節録して栽培法の大概を示す

今般贈る所の除虫用菊花種は有益の植物にして日本の風土には最適すべく方に繁殖するに於ては日本の一大産物となるべし此種は七八月の比餘り膏腴ならざる淡泊の地に於て日當り好き場所に播種し而して過度の水を注ぐべからば播種後凡二三週間に萌芽すべし春季に至り少しく肥料を施し置ける地にて成るべくは石灰を含有する所に移植すべし五年より八年まで五月に花咲く其花の長きるに及び花のみを切り或は幹の上部を併せて切り取り而して其花を採るもあり然れども初に花のみを摘むを良とす

摘採したる花は最初日光に曝して空氣の流通善き所に貯へ置き其乾きたる花を揉み碎きて除虫粉となすなり是れ即重要高價なる貿易品にして利マルマシー地より米合衆國に輸入して消費高の最多きものたり此際除虫粉は芳芬鋭きも亦小虫を撲滅するの効あり夏季中毛皮毛布其他凡て虫害の恐ある物を貯藏するに此粉を用ふ殊にマルマシーの除虫粉は品位價格共に波斯國産に優れり

マルマシーの除虫菊花を培養する地は餘り寒冷ならざる處に多し故に日本にては南方の地方よからん此植物は永く酷寒に堪へる但風は取て害を興へる且沃土に播種するに及ばば瘠鹵なる石地則不毛の地にて足れり唯日受け善き場所を擇ぶべしマルマシーの播種地は海面より三百米以上なれば日本に於ては九州四國の南方諸山不毛の斜面に培養せば可ならむ然れども日本中何地に適するや實驗の爲め同時に諸所に試作するを至當とす若し能く風土に適せば他物の培養し能はざる不毛の諸山と雖一面に此菊の繁殖するを見るべし然れども初年の間は絶えず菊苗を植付けざるを得故に初めの程は必

要なる種子を収むるの目的を以て培養をせし

ダルマシーは一小國なれ共除虫用菊花粉百基に就き平均四十弗より七十五弗までの代
價を以て輸出し毎年其價格五十萬弗の巨額を収む云々

公報の記事斯くの如し其有望なる疑を容れざるや明なり併し領事の報告中寒地には不
適當の如く記しあれども決して然らむ予が試験のため北陸地方雪國に栽培せしめたる
ものも極めてよく好結果を得たり(暖國にありし種もへ斯く述べたるなるべし)且播種
植出し方製法の如き是れ又實地に相違する處あり農商務省より下附の種子の如き此の
法方により殆んど絶滅せしめたるのみならず該植物の又本邦に不適當なると云が如き
事を叫ばしめたり是れ乃ち種子の選擇と栽培の法を誤りたるによるのみ予が栽培の實
驗録は已で上に記載すれば茲に其評を畧す
除虫劑をして有効ならしむるには施す處の虫性により各使用の法方異なれば是れ亦劑
酌して用むべし

又除虫劑を施しまし其虫の性により即時奏効せざるものあり已べて強硬なる虫性にあ
りては數時間或は數日の後死滅するを常とす所謂蛆蚊の如きは即時死せれども蚤虱の

如きは數時間の後煙草虫の如き數日の後初めて死滅するを常とす
植物害虫に使用試験して有効なるを認めたるときは米國博士リレイ氏の漸く近年にあ
れども予が如き已に實驗して好成績ありし事多し乃ちとくも、あふら虫、芽喰虫等に

用て充分奏効せり又果樹の葉を喰らい盡と毛虫の如き能く殺滅せり併し前述の如く
使用の法方により奏効せざるものあり又數日の後死滅するものあれば眼前殺滅を見ざ
るとて必を鹽草の有効を埋没する事なかれ幸に諒せよ

本草會は故に羊山本翁の設立にかゝる本草學を研究するところなり復一君は實に翁の
子孫にして茲に大に其業を擴張し社會に益せんとす幸に斯道有志之輩加盟贊助せられ

んを希望きぼうに入會にきくわいせんと欲ほつする方は當方たうほうへ申越まごせば紹介せいかいを但し直接申込まごも宜し

大日本京都本草會々員

英之助改名

上山英一郎

大日本京都本草會々則並二會員名

京都本草會會則并ニ出品目錄

緒言

我京都は古來本草學を修するもの頗多し稻生若水貝原益軒松岡玄達小野蘭山の四先生最海内に名あり之に繼て山本亡羊翁及其嗣子榕室翁亦同學を以て世に知らる翁文化年間より自宅に於て例年一大會を開き諸國の產物(植、動、礦)を蒐集陳列して同志者の縱覽に供す其主要たるは物質を品査辨明し以て同志と研究を勉るもの殆ど五十年繼續す之を本草會と稱す當時に在て諸物の可否を發見し世人の智識を開き其裨益少しとせ安政文久の間二翁相踵て物故し翁の宅亦兵燹に罹る本會是に至て止む今般同志者及翁の子弟故舊門人と相謀り翁の遺志を繼ぎ本會を再興し此學を擴張せんとす亦裨益するところあらん仍て左の會則を設く伏冀ふ四方の同志諸君此意を贊襄し御入會あらんとを

京都

本草會幹事

會則

一本會は同志相會し植物其他天產物を品査研究するを主とす

- 一本會の名稱は舊會を繼續するを以て其舊名を存し本草會と稱す
- 一本會は年々春秋の内一回或は二回大會を催し諸家の物品を陳列し會員其他同好者の觀覽に供し又三月六月九月十一月第三土曜日午後より小會を開き會員相集り此學を研究するものとす大會を開く月小會に當るときは其小會を止む
- 但し當日出席せざる會員及各地方の會員は物品書面を以て質問應答するを得
- 一本會は其會員たることを表する爲め各會員に證券を贈與す
- 一會員たらずと欲するものは會員の紹介を経て入會を許す
- 一大會開設の節は本會幹事より期に先ち其會場日時及出品取扱等のことを各會員へ報告す
- 一會員外の人大會の節出品せる人には本會幹事より入觀券を贈るものとす
- 但し出品者其出品の鑑定を乞とを得
- 一各會員へ大會毎に入觀券十枚つゝを贈るものとす
- 一會員外の人大會の節通覽を乞者は會員の紹介を経て入觀券を持參せし
- 但し券面に紹介會員の小印を捺すへし
- 一會員は毎年半期毎に會費として金五拾錢を出すへし
- 但し毎年四月十月に半期分を徵集す便宜にて一時一ヶ年分を出すも障なし新に入

會する者は其期分より徵す又事故ありて退會せるものは其證券を本會へ返還し既收の會費は本會より返附せむ

一會費は總て會員の年酬金を以て之に充つ

一本會を賛成し金圓物品を寄贈するものあるときは本會より謝狀を送呈す

一大會出品目錄及會員姓名書は印刷に附し各會員へ贈與せるものとす

右會則實際に就き不便に涉るときは大會の節を期し修正するとあるべし

明治廿七年六月廿四日京都本草會出品目錄

(印度菩提樹を始つめ珍草奇木の山本君へ寄贈せられたる目錄あれども茲に畧しぬ)

京都本草會人名

贊成員

久 邇 宮 殿 下

公 爵 岩 倉 具 定 君

公 爵 二 條 基 弘 君

公 爵 近 衛 篤 麿 君

公 爵 一 條 實 輝 君

侯 爵 久 我 通 久 君

伯 爵 大 隈 重 信 君

伯 爵 真 田 幸 民 君

伯 爵 前 田 利 同 君

子 爵 品 川 彌 二郎 君

東京					伯爵																
中田彦三郎君	中島錫胤君	内貴甚三郎君	中井弘君	辻忠四郎君	辻信次郎君	冷泉為紀君	田中治兵衛君	田中勘兵衛君	田村宗兵衛君	高橋規炬太郎君	多田佐兵衛君	多村知興君	武田定良君	竹内雄四郎君	竹内友仙君						

					子爵	子爵	子爵															
熊澤成清君	熊谷久兵衛君	久世通章君	九鬼隆備君	倉橋泰顯君	野村鍊之丞君	上野彌一郎君	上野英一郎君	上田勝行君	宇田淵君	村田武長君	村田寂順君	永田彌吉君	半井澄君	中村德兵衛君	中澤長兵衛君							

五十九

狩野勝右衛門君	金子淳君	川島甚兵衛君	龜田利兵衛君	河村虹外君	加藤寧蔭君	梶浦與三郎君	桂慶次郎君	河越重幸君	河瀬秀治君	河田景福君	若林祐作君	渡邊清君	大辻久一郎君	岡村五兵衛君	奧村令信君							

田中秀三君	田中宣之君	田中歌永君	田中歌雄君	谷口香嶠君	高階經本君	多田好問君	竹村藤兵衛君	玉松眞幸君	谷倉重之助君	米倉重之助君	吉田良榮君	吉田清造君	吉田省三郎君	吉田五郎君	吉田俊吉君							

五十八

鈴鹿辨三郎君	杉本爲一君	菅野弘一君	隅野省吾君	杉浦利貞君	鈴木宗泰君	森川曾文君	森村廣太郎君	望月玉泉君	平野吉兵衛君	正田敬藏君
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	--------	-------

慶松勝左衛門	富岡謙三	細辻昌雄	佐伯靜太郎	山本復一	山本章天	男爵玉松眞幸	子爵六角博通	會幹
--------	------	------	-------	------	------	--------	--------	----

廣告

紀州本場 蜜柑苗數種

珍橘苗 數十種 但シ 三年苗 六年苗 九年苗 種々

紀州 檣井ニ 葡萄 檣井苗

右請求ニ 應ジ 分與ス
香莊 上山 英之 助著

蜜柑栽培書

圖畫 入全一冊
二百ペーシ
近日出版

凡例 總論 產地 功能 氣候 地勢 土性 選擇 開墾 截枝 施耕 接木 肥料 栽植
壽命 虫害 驅除 病害 採收 期節 并ニ 執筆 販賣所 苗木 選擇 苗仕立 收支 決算
器具 其他 詳細

白蠟 并ニ 生蠟

右多少ニ 不限 御注文ヲ 乞フ

木蠟 製造 貿易 商

紀伊 國有 田郡 山田 原

上山 英一 郎

明治廿八年四月廿八日初版印刷
明治廿八年五月六日初版發行
明治廿九年四月十五^五日再版印刷
明治廿九年四月十六^九日再版發行

定價金拾五錢

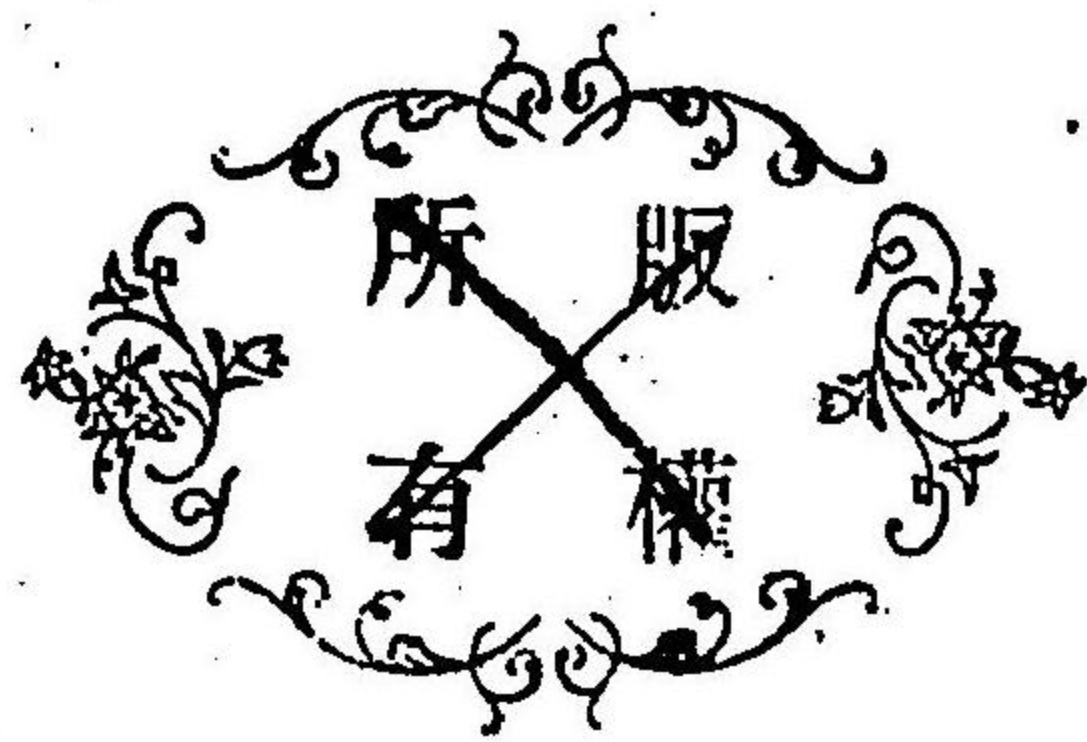
編輯者 和歌山縣有田郡山田原平民
上山英一郎

印刷者 大阪市東區平野町四丁目九十一番屋敷
柏井權三郎

印刷所 大阪市東區平野町四丁目九十一番屋敷
日進堂

和歌山縣有田郡山田原

發賣元 上山商會



18
700



18
700

061989-000-7

18-700

除虫菊栽培書

上山 英一郎/編

M29

CCA-0697

